

Q. オンラインのよさを活かす工夫として、どのようなことが考えられると思いますか？
(例えば、遠隔のゲスト講師が参加できる、海外の大学と結ぶ、本学以外の映像教材を活用する等)。

【教育学部 金馬 国晴先生】

ゲスト講師が招きやすくなりました。長野県の山奥から山村留学施設のスタッフも招け、移動時間も交通費も要らず、施設や周囲の様子や子どもへのインタビューも中継してもらえました。

個人のページで述べた「ディスカッション」や「掲示板」は、文字だけでも、いや文字でこそ受講生全員が(班の中だけでなく)意見交換できるという点で、オンラインのよさといえそうです。しかも動画やサイトの投稿し合いも可能です(学生が相互に読んだ場合も、クリックすればすぐ開けるが、紙ベースではそうはいかない)。

【経営学部 高井 文子先生】

昨年度、オンラインゼミ合宿で、ベンチャー企業のオンライン企業訪問を行いました。訪問者の数を気にしたり、往復の時間を気にしたりといったお互いの負担にならず、訪問できる企業の幅が増え、新しい可能性を広げることができたと感じています。

【理工学部 伊藤 傑先生】

「本学以外の映像教材を活用する」という利点はあると思います。昨年度の遠隔授業(実験科目)で、下記のような課題(少し乱暴な課題かもしれませんが)を3年生に出してみたら、優れた動画も多いようで、好評でした(化学反応の説明を英語で学ぶことができて良かったなど)。

[インターネットの動画検索で「Diels-Alder Reaction」と検索して英語動画(YouTubeなど)を1本視聴し、そのURLを示すとともに、内容を400字程度にまとめて説明せよ。説明のために自作の図を示しても良い。]

【理工学部 竹居 正登先生】

「オンラインのよさ」とは少し違いますが、立体的なグラフを動かして見せるなど、視覚的な効果を生かしてイメージを豊かにするような授業をやってみたいという意欲をもてるようになったのはよかったと思います。

【都市科学部 藤原 徹平先生】

教員も学生も世界中どこにいても講義を受けられるように、ルールを変えるのが良いとおもう（交換留学時も横国の授業も受けられるとなおよい）。フィールドワーク型の講義や研究がやりやすくなる。

【国際戦略推進機構 中川 健司先生】

遠隔のゲストスピーカーをお呼びできること、ネット上の情報を活用すること、オンラインのツールを活用すること、学生が自分のペースで学習を行いやすい形にすることが考えられると思います。

【国際戦略推進機構 長谷川 健治先生】

海外からのゲストレクチャーはハードルが低くなったので、パンデミック後も活用したいと考えています。

【国際戦略推進機構 渡辺 雅仁先生】

「遠隔のゲスト講師が参加できる」、「海外の大学と結ぶ」については実施済みです。本学以外の映像教材を活用するについて、海外 MOOCS の活用等ができるとういことです。

【大学院教育強化推進センター 市村 光之先生】

特別なことをしなくても、必要に応じて視聴覚教材を利用したり、海外を含め学外からゲスト講師に授業に参加していただいたり、授業の質を向上させることができます。他大との合同授業や単位互換も実現しやすくなりましたので、そうした可能性も探るべきではないでしょうか。